

# 整形外科外来だより

No 20 2011/02/01 けいゆう病院 整形外科 発行

## ◆ 異動のお知らせ

2年間にわたり膝関節中心の診療を担当してきました内田医師が、昨年9月末を以って異動・退職しました。代わりに赴任しました川崎が今後の外来だよりを担当させていただきます。異動して約4ヶ月が経過し、ごあいさつが遅くなってしまいましたが、自己紹介させていただきます。専門は膝関節を中心とした関節外科で、人工関節置換術や関節鏡手術を主に行なっております。月曜日が初診なので関節の症状でお困りの患者さんは是非ご相談下さい。よろしくお願いいたします。

## ◆ ヒアルロン酸の関節内注射について

毎日のように新聞や雑誌に登場するヒアルロン酸ですが、どのようなものなのでしょうか？新聞に載っている広告をみると、まるで若返りの薬のようですが実際はどうなのでしょう？

ヒアルロン酸の使い方は、主に飲む（新聞によく出ている飲むヒアルロン酸です）・塗る（化粧品など）・注入する（整形外科での関節への注射・美容外科での皮膚への注射など）ですが、今回のコラムでは整形外科の外来でよく行なわれているヒアルロン酸の膝関節内への注入治療に絞って話をすすめてみましょう。

膝関節は、毎日体重の負担を受けながら動かしているため、長年にわたり使っていると、骨の表面にある軟骨が擦り減り、更には骨も変形してきます。中高年になり膝関節が変形してくることで、膝が痛く、歩くことや階段の昇り降りが不自由になる疾患を変形性膝関節症といいます。ヒアルロン酸製剤の関節内注入療法は、世界中で広く行なわれている治療法であり、変形性膝関節症に対する効果が確認されています。

ヒアルロン酸は、軟骨・皮膚・臍帯・肺・肝・腎・眼球など身体のなかのいろいろな部分に存在します。元々は1934年に牛の眼球（硝子体）から発見されました。関節の治療に使用される理由は、ヒアルロン酸の持っている性質にあります。粘性（ぬるぬるとして粘り気があること）が高く、弾力性（衝撃を吸収する作用）があります。正常なヒトの膝関節には、関節液が存在して潤滑と衝撃吸収作用がありますが、変形性膝関節症では関節液中のヒアルロン酸の濃度が低下しています（粘り気がなく弾力性の低い関節液になっています）。注射によってヒアルロン酸を補充することで正常な関節液に近い状態になり、潤滑と衝撃吸収作用が増すことで痛みの軽減が得られます。機械に例えれば油がきれてきたので、潤滑油をさすイメージです。

方法は1週間ごとに連続5回程度、膝の関節内に注射します。副作用は非常に少ない薬です。注射をした部分から細菌が入り込むのを防ぐために、当日の入浴は控えます。5回注射した後は、症状に応じて注射による治療を続けることができます(月に1~2回程度)。痛み止め(局所麻酔剤やステロイドなど)の注射と違って劇的に痛みが改善することは少ないですが、長期的には痛みを改善する効果が確認されています。

他にもヒアルロン酸の効果として、炎症を抑える作用や軟骨や骨を破壊する因子を抑える作用などがいわれていますが、実際はわかっていないこともたくさんあります。また若返りをイメージさせる広告もありますが、残念ながら一般的には、損傷してしまった軟骨や変形した骨を再生するほどの効果はありません。ヒアルロン酸の注射を含めた外来での治療で痛みの改善が得られない場合には、人工膝関節置換術などの手術が有効です。No18の外来だよりも取りあげていますので参考にして下さい。

#### ◆ サイビスクについて

今年1月から当院で新しいヒアルロン製剤の使用を開始しました。現在使用している製剤と比べて、健康な人の膝関節液に含まれるヒアルロン酸とよく似た性質を持つように調整された新しいタイプのヒアルロン製剤です。より早期に関節痛の軽減が達成され、より長期間効果が持続することが期待されています。副作用が少し多い、価格が高いなどいくつかの短所もありますが、興味のある方は医師に相談して下さい。

(文責 川崎俊樹)